

平成26年度 第3回蕨市健康づくり推進会議 会議録（概要）

日時	平成27年3月27日（金） 午後1時30分～3時
会場	蕨市保健センター 2階 健康教育室
出席委員	（敬称略）
	吉岡 幸子（会長）、金子 健二（会長代理）、白根 雅之、本吉 義博、柳原 登子、伊東 光枝、藤井 康榮、荒井 貞夫、沖永 郁子、名久井 純子、池田 睦
欠席	
	田中 義枝、植田 富美子、菅谷 理、山内 典子
事務局	
	部長：川崎 文也 所長：石丸 岳広 保健指導係長：小林 桂子 保健師：高橋 律子 保健師：横山 早百合 管理栄養士：泉谷 祐希
会議次第	
	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議 題 (1) 平成26年度事業報告について (2) 平成27年度事業予定について (3) その他 4. 閉会
資料	
	平成26年度 第3回蕨市健康づくり推進会議 次第 「わらび健康アップ計画」平成26年度事業報告 平成27年度蕨市検診（健診）のお知らせ 健康長寿埼玉モデル 関連資料 （参考資料） わらび健康アップ計画情報紙「歩きたくなる！ウォーキングマップ（北町）」

内容

【傍聴希望について】

本日の傍聴希望者なし。

【議題】

(1) 平成26年度事業報告について事務局より説明。

会長：ご意見・ご質問などあればご発言ください。

委員：わらび健康アップ計画情報紙のウォーキングマップ（北町）について、避難場所やトイレのある公園を掲載しているが、実際に災害が起きた際、公園等のトイレは使用禁止になると以前聞いたことがあるが。

事務局：今回の場合はウォーキングの途中で使用可能な場所ということで表示した。災害の場合などについては、担当課に確認のうえで、市民に対し適切な対応がなされるように周知していきたい。

委員：健康密度アップママ講座が今年度の分は終了したようだが、講座の目的となる参加者の自己効力感・自尊感情を高めること、そして維持していくことに対して、今後どのように考えているのか。

事務局：健康密度アップママ講座については、平成27年度より実施する新しい健康づくり事業にシフトしていく予定である。新規事業を行うにあたっては、平成25、26年度アップママ講座参加者にも参加を呼びかけていく予定で考えている。また自己効力感・自尊感情などのいわゆるモチベーションを維持していくことに関しては、この事業に限らず、今後健康づくりを行っていくうえでの課題であるといえる。

委員：講座の際の調理実習のレシピをぜひ食生活改善推進委員会にも提供して欲しい。民間の情報は著作権の問題があり利用が難しい部分があるので、センターのレシピを活用できればありがたい。

事務局：今後団体等からの要望があれば提供していきたい。

(1) 平成27年度事業予定について事務局より説明。

会長：次年度からの事業展開について、何かご意見等あればご発言ください。

委員：健康長寿埼玉モデルの具体的な事業展開はどのように考えているか。

事務局：健康長寿埼玉モデルについては、今年に入ってから発表され、市町村の実施希望を埼玉県が取りまとめ始めたばかりである。したがって、事業内容の検討や補助金の交付決定はこれからであり、補助金交付の可否を受けて具体的な事業内容を検討していく予定である。しかしながら、この2～3年のうちに埼玉県内の全市町村で事業を実施していく予定とされていることから、県から事業のノウハウについて助言指導を受けながら検討をすすめたいと考えている。

委員：補助金の交付がなされない場合の事業展開はどうするのか。

事務局：現在の健康づくり事業の予算を活用しながら、可能な範囲で実施していく予定である。

委員：モデル事業を実施した自治体の医療費抑制の効果等を強調し、必要な予算要求をしていくべきであろう。

会長：医療費抑制以外にも、疾病の重症化予防も大きな目的の一つであると考えている。

委員：要介護状態ではないもののそれほど元気ではない狭間の方に対して、事業に参加できるように送迎等の支援がないものかと考えている。

委員：事業の住民への広がりや口コミの効果も大きい。コミュニティの中での広がりに期待したい。

会長：「健康長寿」というネーミングについて、若い方が興味を示すようなものに替えて実施していったほうが良いだろう。

委員：介護予防事業を実施していても、参加者の重複、地区参加者の偏りがみられる。各地域に拠点を設け、そこから多くの住民に事業が周知されると良いと思う。

事務局：事業の実施にあたっては、保健センターだけでなく関係部署にも協力を要請し、また地域団体等の活用を図りながら行っていきたいと考えている。

会長：次年度からの健康づくり事業の発展に期待したい。